

# 「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年5月27日(木) NO8 文責 木下 文秋

## 勉強ができればそれでいいということでもない

中間テストが終了しましたが、皆さんの感触はどうでしたか。特に一年生は初めての定期テストでしたから、緊張したことでしょう。今の時代は、高校に進学する人が90%を超えていますから、高校を選択するにあたりどうしても定期テストや地区のテストが重要になってきます。しかし、勉強ができればそれでいいということでもありません。都城市の池田市長は、東京大学に研究生として出向していたそうですが、東京大学に入学してくる学生は頭は超一流のはずだろうけど、話す言葉や行動がとても幼稚で、この学生が将来「官僚」として日本の将来を背負うのかと思うと、とても不安だったとお話をされています。「勉強ができる人」と「賢い人」は意味が違います。「勉強ができる人」はいわゆるテストで高得点をたたき出す人。「賢い人」は、時と場に応じた言動ができる人。私はそう思います。東京大学をはじめ超一流を出た「勉強ができる人」が、政治やいろんな世界で不適切な発言をしたり、トラブルを起こしたりする場面を見ることがあります。勉強ができればそれでいいということではありません。皆さんは、勉強以外にどんなことが大事だと思いますか？例えば、「嘘をつかない」「約束を守る」「友だちを大事にする」「思いやりと優しい心をもつ」どれも正解ですね。これを一つの言葉で整理するとすれば「人として正しく生きること」だと思います。私の両親は、特に裕福な家庭で育ったわけでもなく、中学を卒業してそのまま就職しています。当時は中学卒業後、就職する人が数多くいる時代でした。戦後間もない時代を生きてきた我々の先代達は、そのような境遇におかれた人が多かったと思います。そんな人を頭が悪い人だと思いますか？むしろ、育て上げてくれた両親には、尊敬と感謝の念でいっぱいです。「人として正しく生きる」とは、自分の役目をしっかり果たし、自分自身も周りの人のことも大事にしながら、社会を生きていける人だと思います。決して偉い人であったり、成功した人であったりすることが、ベストではないのです。皆さんにとって、今大事なことは、毎日を元気なあいさつと笑顔で、楽しく充実した生活を送ることです。それを「丁寧に生きる」というのだと私は思います。人間の値打ちはテストの結果だけで決まるのではないことを、是非皆さんに理解して欲しいと思います。